



厚生労働省 医政局長賞

チラシ部門 特別賞

# 「みんなのくらしゅう」 -共に考える地域医療- 地域医療をまるごと、1冊にまとめました

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院 地域医療連携室

## 取組の経緯について

### ■いざというときに、重症患者を断ることのないように

2025年問題を見据え、医療の機能分化の仕組みを市民に知ってもらう必要性を感じ2011年より発行開始。病状にあった医療機関で治療することが患者の為にもなり、またそれにより、当院（急性期病院）は地域で求められる新たな救急患者や紹介患者を診る役割を担うことができる。それには市民一人ひとりの理解と協力が重要と考えた。

## 事業の概要と特徴

### ■市民目線でわかりやすくをモットーに

医療の機能分化の仕組みを、なるべく専門用語を使わず写真やイラスト・図を多用してわかりやすく、読者に受け入れられやすい表現を追求し、市民目線で制作。10年目となる今、冊子媒体の他に各種ムービーコンテンツ、チラシ・ポスターとして冊子内容を抜き刷りし院内にて配布・掲示した、またどなたでもより多くの方に見ていただけるようホームページ上に冊子データの展開も行っている。チーム医療を見やすくまとめて伝えている。

## 医療のかかり方を変えていくポイント

### ■自分の健康に向き合い、医療の機能分化について理解してもらえるようPR

まずは自分の身体と向き合うことから始めてもらいたい。必要な受診やけんしん（検診・健診）ができていないか、「時間がない」や「コロナ禍だから」と受診を控え、症状が悪化してから医療機関にかかるケースもあるが、その前に未然に防いでほしい。その上で医療機関にかかるときは、上手なかかり方ができるよう機能分化について理解しておく必要がある。

かかりつけ医を持ち、わからないことはまずはかかりつけ医に相談する。

この市民一人ひとりの意識が、その街の医療につながる。市民に自分事として捉えてもらうことで、自ずと医療のかかり方も変わってくる。「みんなのくらしゅう」で継続して伝えていきたい。

冊子媒体です



### 救急医療

かかり方が地域の医療をつくる

救急搬送が増加している今、救急医療の適切な利用が不可欠です。もし、あなたが救急受診をするとき、1秒でも早く治療を受けるために、



この数字は何でしょう？

54.5%

54.5% 一救急搬送後、倉敷中央病院に入院となった割合 (割合)

倉敷中央病院は入院や手術が必要な患者さんを24時間体制で受け入れています。急性期センターでは、24時間体制で救急・重症の救急搬送と救急外来に対応し、いつでも高度な医療が受けられることを目指しています。

### ■年々増加している救急搬送件数

倉敷市全体の救急搬送件数と当院で受け入れた救急患者の数は、どちらも年々増加しています。



### 倉敷市だけでなく周辺地域からも重症患者さんを受け入れています

入院や手術が必要な重症患者さんの救急搬送が増え続ける中で、救急搬送センター機能の確立と、患者さんがいつでも自由に受診できることは重要課題と捉えられています。



### 【重症患者さんに早く治療をってもらうために】

救急医療連携が強化することにより、重症患者さんや、救急搬送・対応が必要な患者さんの診療をおこなっています。

10人に1人 当院では救急搬送の受け入れ体制のため、救急搬送患者さんを10人に1人は救急搬送センターに搬送して診療しています。つまり、治療を受けるまでの時間が短くすることができます。

救急医療の適正受診のためご理解とご協力をお願いします  
病状に即座して救急搬送センターに搬送される場合があります。救急搬送センターは現在の方も受け入れ可能ですが、入院や手術などが必要な方には、診察にかかる時間の短縮に追加の費用をご負担いただく場合があります。

対価期間：21時00分～翌朝9時00分に受診受付をした方  
定 額：5,500円(税込)  
※救急搬送センターの診療時間外は、救急搬送センターに搬送された患者さんには、一部費用がかかります。

### ご自身で直接救急受診をする患者さんは減少傾向です

患者さんの適切なかかりつけが、救急搬送センターの機能を確保できる体制につながっています。救急搬送の適正受診に貢献していただければ幸いです。ありがとうございます。



※冊子一部抜粋